

えりも地域ゼニガタアザラシ 特定希少鳥獣管理計画(第2期) について



令和2年1月22日(水)
環境省 自然環境局

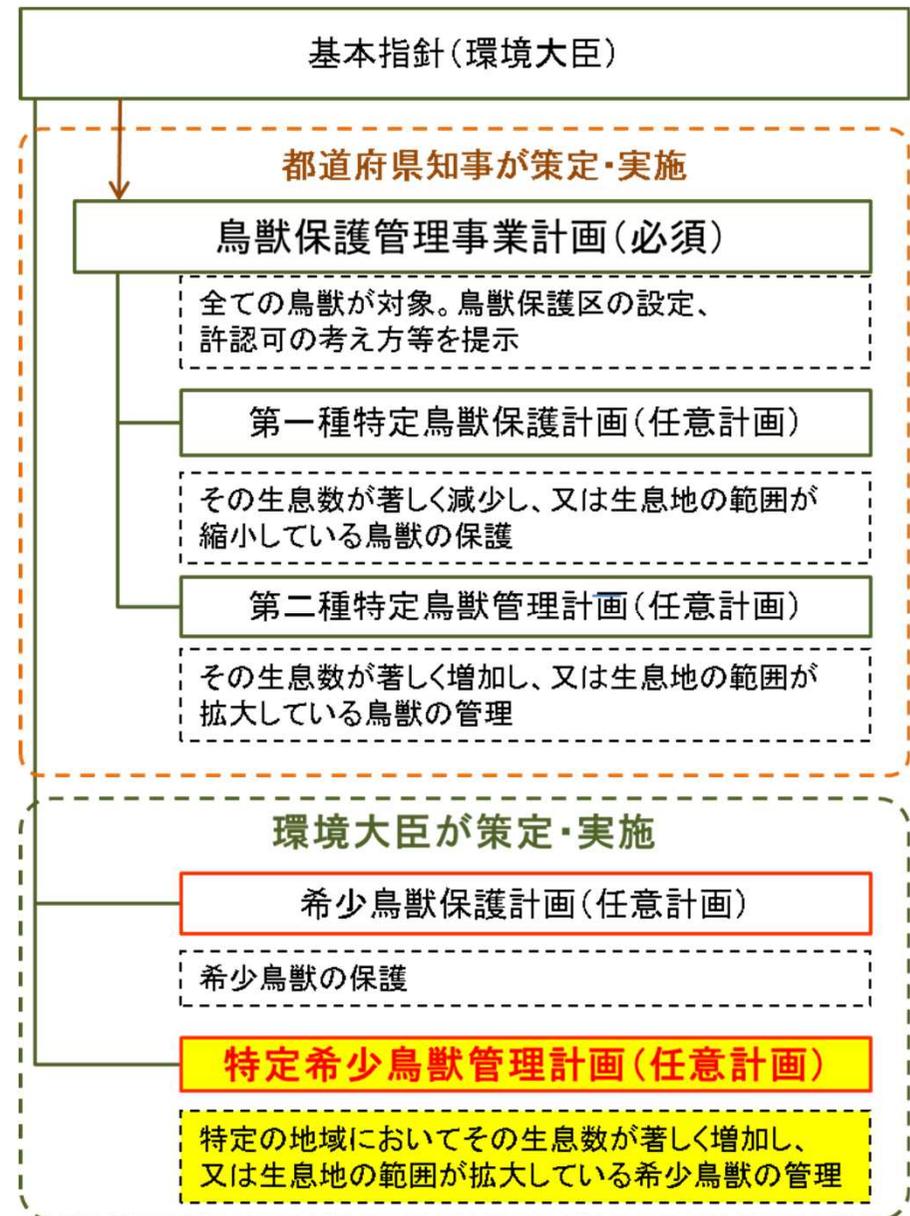
鳥獣法保護管理法における特定希少鳥獣管理計画の位置づけ

【特定希少鳥獣管理計画】

(鳥獣保護管理法第7条の4)

・環境大臣は、特定の地域において、その生息数が著しく増加し、又はその生息地の範囲が拡大している希少鳥獣がある場合において、当該希少鳥獣の生息の状況その他の事情を勘案して当該特定の地域において当該希少鳥獣の管理を図るため特に必要があると認めるときは、当該希少鳥獣(以下「特定希少鳥獣」という。)の管理に関する計画(以下「特定希少鳥獣管理計画」という。)を定めることができる。

・環境大臣は、特定希少鳥獣管理計画を定め、又はこれを変更しようとするときは、あらかじめ、中央環境審議会の意見を聴かなければならない。



(背景)ゼニガタアザラシの生態

【分布】

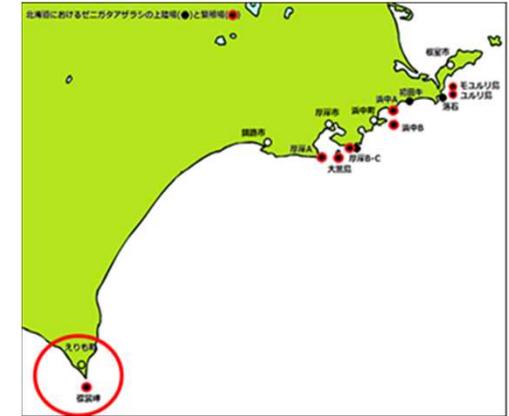
- ・太平洋・大西洋の北部沿岸域に広く分布
- ・北海道に生息する亜種はアリューシャン列島から襟裳岬の沿岸に分布

【生態】

- ・一年中沿岸域に生息し、定着性が高い
- ・岩礁上で出産。北海道における主要な繁殖場は、襟裳岬と大黒島
- ・食性はミズダコ、スルメイカや沿岸の底生魚類

【全道の生息状況】

- ・1940年代:1,500頭程度(推定)⇒1970年代:400頭未満
- ※乱獲や沿岸生息環境の悪化
- ⇒近年の最大上陸頭数:1,089頭(2008年)

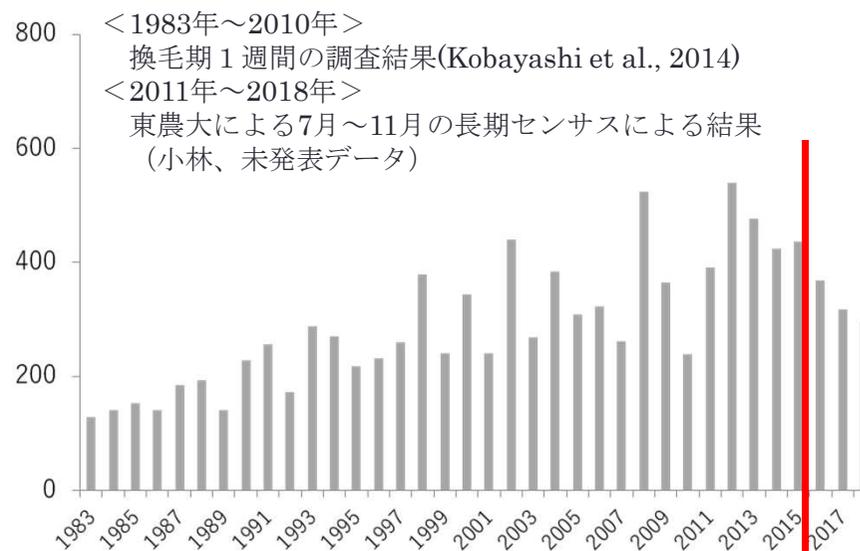


北海道におけるゼニガタアザラシの上陸場の分布

(背景) えりも地域のゼニガタアザラシ

【襟裳岬岩礁の最大上陸頭数】

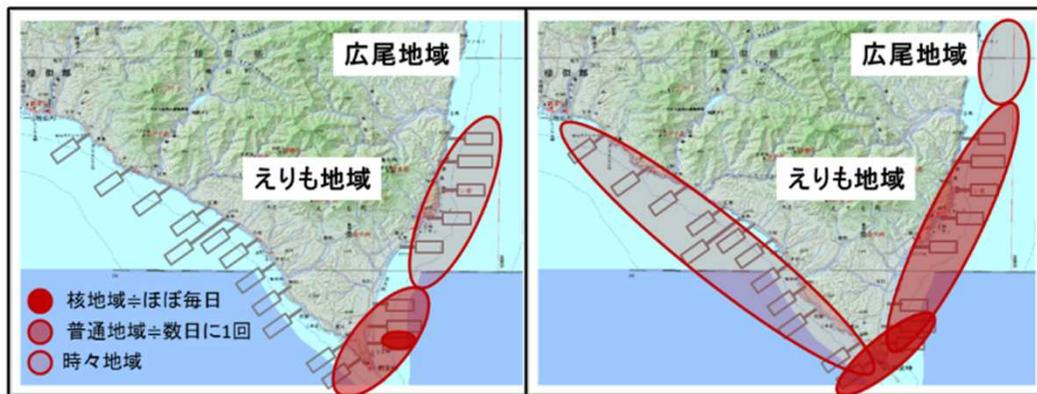
- ・1970年代に約150頭
⇒現在600～300頭
⇒推定生息数：概ね900頭
- ・個体数増加に伴い、漁業被害が深刻
(特にサケ定置網漁、タコ空釣り縄漁)



管理計画策定

1984年

2011～2013年



(背景)ゼニガタアザラシと地域、保護管理の動き

【かつての利用】

- ・毛皮(シールなど)、肉(食用)、脂肪を利用
⇒1990年代以降は全く捕獲されなくなる

【生態調査・保護管理の動き】

- ・1970年代～:調査・天然記念物指定に向けた活動
- ・1980年代～:ゼニガタアザラシ研究グループによる調査
- ・2000年代～:東京農大・環境省等による調査、試験捕獲

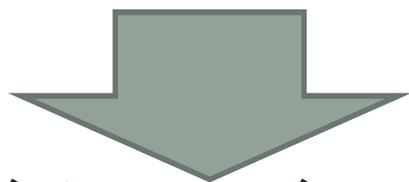
【地域における活動】

- ・1990年:ERIMO・SEAL・CLUB設立
被害調査・防除・生態調査・普及啓発など



(背景) 存続可能性評価の結果

- ・1998年 絶滅危惧IB類と評価
 - ・2012年 絶滅危惧Ⅱ類へと評価が変更
 - ・2014年 ゼニガタアザラシ科学委員会を設置
- ★ 個体群のシミュレーションを実施
- 1974年以降の長期的な個体数観測
 - 近年の詳細な個体数調査
 - ヘリセンサスや発信機を用いた調査 等



リスク評価のシミュレーションにより、えりも地域の個体群は、疫病の発生等の不確実性を考慮しても、今後100年間における絶滅確率が10%以上にはならないことが示された

- ・2015年 レッドリスト検討会

絶滅危惧Ⅱ類の評価基準(E基準)

絶滅の危険度の再評価がなされ、**準絶滅危惧**と判定

保護管理の枠組み：管理計画（第1期）

計画

平成26年度～27年度
環境省えりも地域ゼニガタアザラシ
保護管理計画

平成28年度～31年度
えりも地域ゼニガタアザラシ
特定希少鳥獣管理計画（第1期）

目的

えりも地域におけるゼニガタアザラシ個体群と漁業を含む地域社会との共存

個体群管理の目標

個体群の存続可能性評価

持続可能な個体群の維持と
被害軽減に向けた管理

個体群の状態・被害状況等のモニタリング

被害防除の目標

漁網改良手法の検討・試験
忌避音波の検討 等

効果的な手法のさらなる改良
忌避音波の装置化・設置試験 等

生息環境・地域社会

アザラシの生息環境に関する情報の収集
観光や教育への活用等の地域社会との関わりの検討

管理計画(第1期):協議会の設置、取組内容

- ・2015年(平成27年)10月 全ての関係者で構成された「えりも地域ゼニガタアザラシ保護管理協議会」を設置

<取組内容>

① 個体群管理

② 被害防除

③ モニタリング

- ・具体的な取組は、1年度毎に協議会で定める事業実施計画の中で策定
→「ゼニガタアザラシ科学委員会」で評価・検討

具体的な取組 個体群管理:捕獲

①個体群管理

【管理計画】

100年以内に絶滅する確率が10%未満となるよう留意

【実施計画】

管理計画開始時(2016春:推定1,000頭程度)に比べ、まずは8割まで生息数を減らす(分布範囲も縮小させたい)

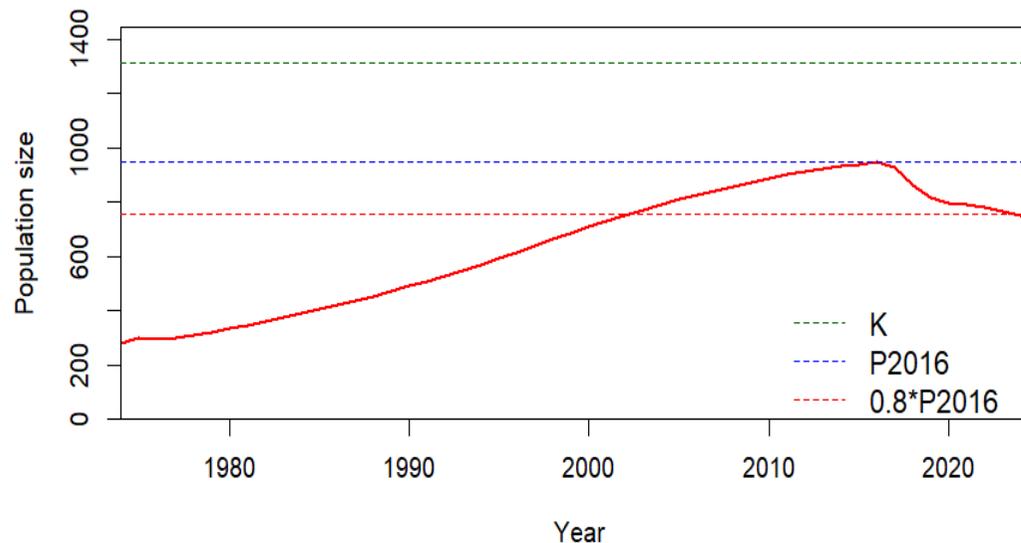
→100年以内の絶滅確率は1%未満

→(計画当初)年間100頭、3年間捕獲する

具体的な取組 個体群管理：捕獲

① 個体群管理

- ・2016年～2019年(1月末暫定値)の捕獲等数は計369頭(1歳以上88頭、当歳281頭)
- ・捕獲個体は当歳の比率が高く、推定生息数は900頭程度(当初目標の9割程度)

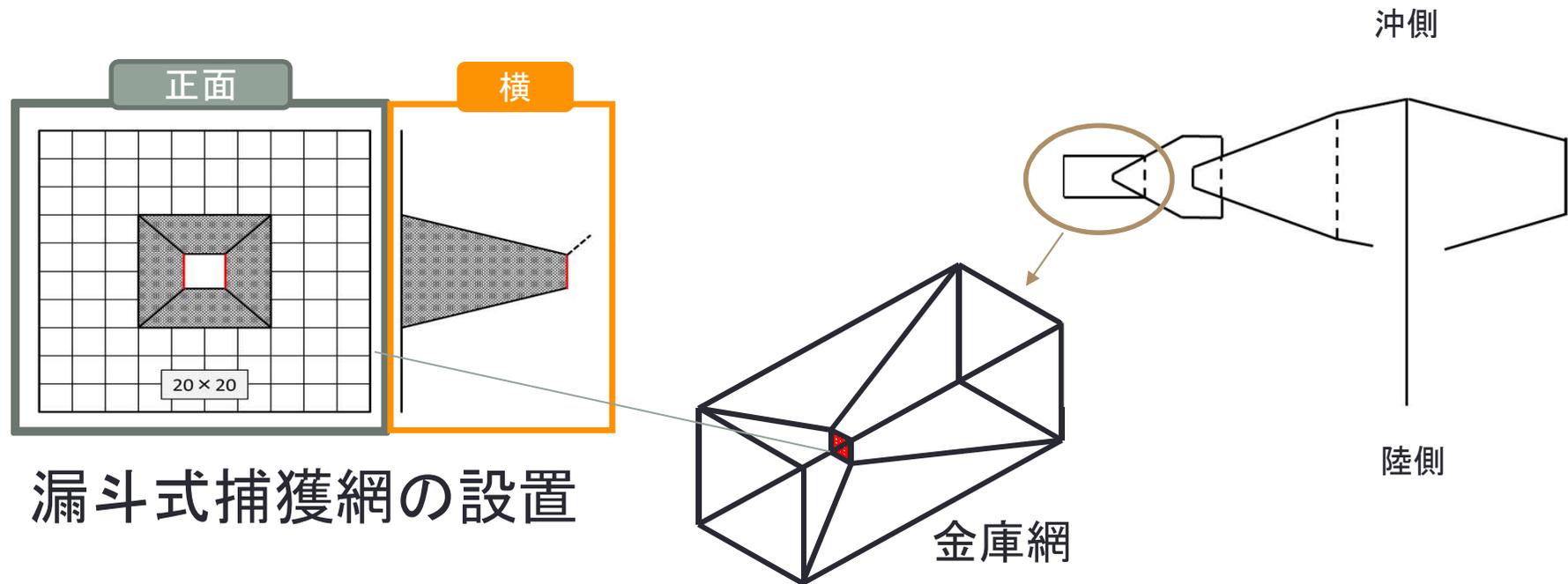


具体的な取組 個体群管理:捕獲

①個体群管理

＜捕獲手法:漏斗式捕獲網(落とし罟:初期型)＞

- ・定置網の金庫網の入口に漏斗式の捕獲網を設置し、アザラシを捕獲する



具体的な取組 個体群管理：漏斗式捕獲網（初期型）

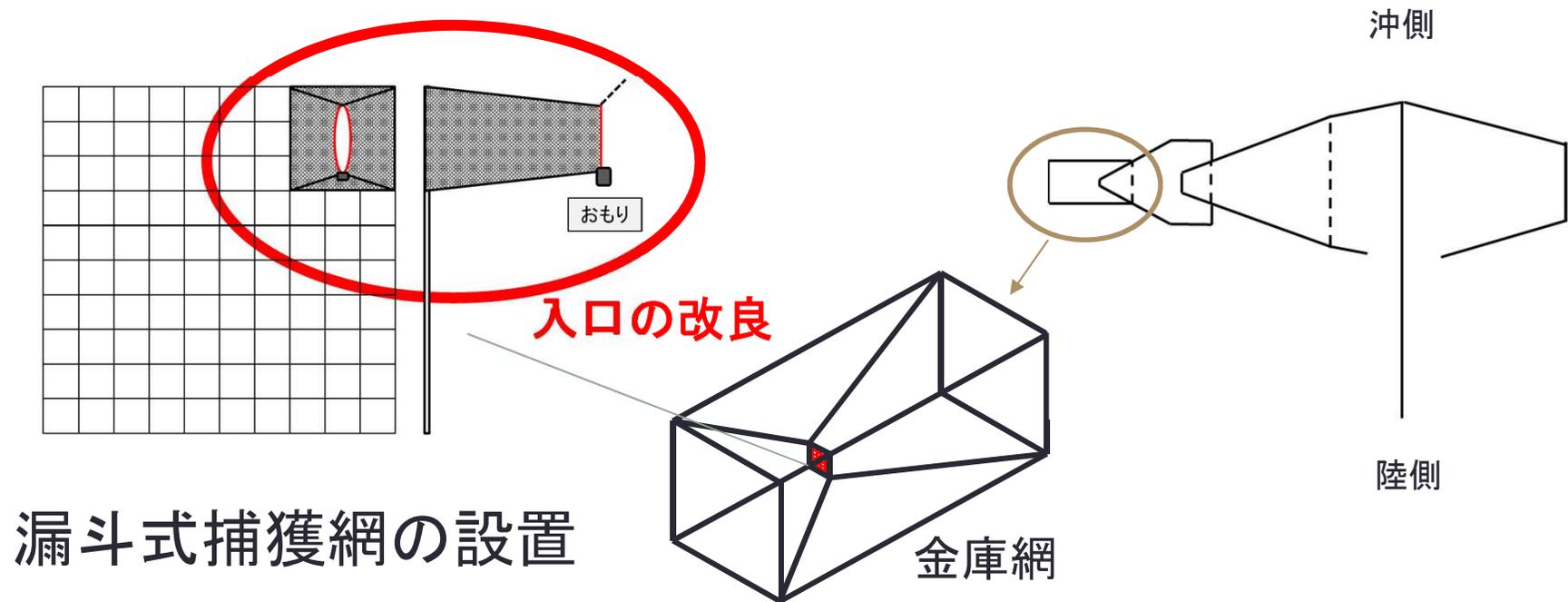


具体的な取組 個体群管理:捕獲

①個体群管理

<捕獲手法:漏斗式捕獲網(落とし罟:改良型)>

- ・定置網の金庫網の入口に漏斗式の捕獲網を設置し、アザラシを捕獲する



具体的な取組 個体群管理：捕獲

①個体群管理

単位：頭

捕獲区分	齢区分	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	合計
捕獲目標頭数		100	140	140	80	-
定置漏斗式捕獲網	当歳	12	7	1	7	27
	1歳以上	4	27	13	16	60
	計	16	34	14	23	87
刺し網	当歳	19	91	124	20	254
	1歳以上	10	11	5	0	26
	計	29	102	129	20	280
合計	当歳	31	98	125	27	281
	1歳以上	14	38 +1(銃試験)	18	16 +1(銃試験)	88
	計	45	137	143	44	369

※2019年度の捕獲等数は、令和2年1月現在暫定値

具体的な取組 個体群管理：捕獲

①個体群管理

<捕獲方法(分かったこと)>

○刺網

- ・一度に多く捕獲できるが、自然死亡率が高く、個体数調整に大きく寄与しない幼獣が多い
(当歳：254頭捕獲、1歳以上：26頭捕獲)

○定置網に設置した漏斗式捕獲網

- ・捕獲数は多くないが、定置に執着する大型個体(※1)を選択的に捕獲できる(当歳：27頭捕獲、1歳以上：60頭捕獲)

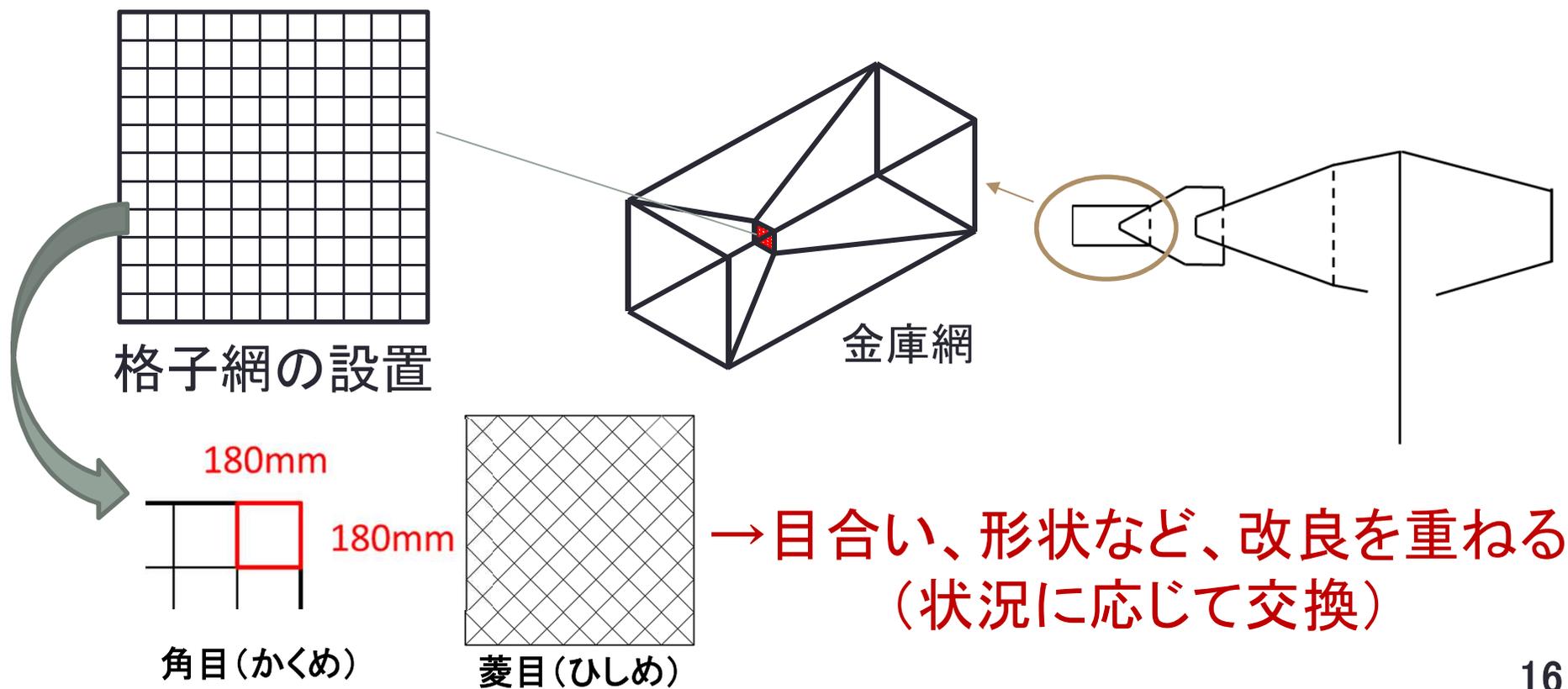
(※1)モニタリング結果から、サケに依存する個体は大型個体が多く、網に何度も来遊する個体も確認されている。

→今後、定置の捕獲網を中心に捕獲

具体的な取組 被害防除1:防除格子網

②被害防除

- 定置網の金庫網の入口に防除格子網を設置し、アザラシの侵入を防ぐ

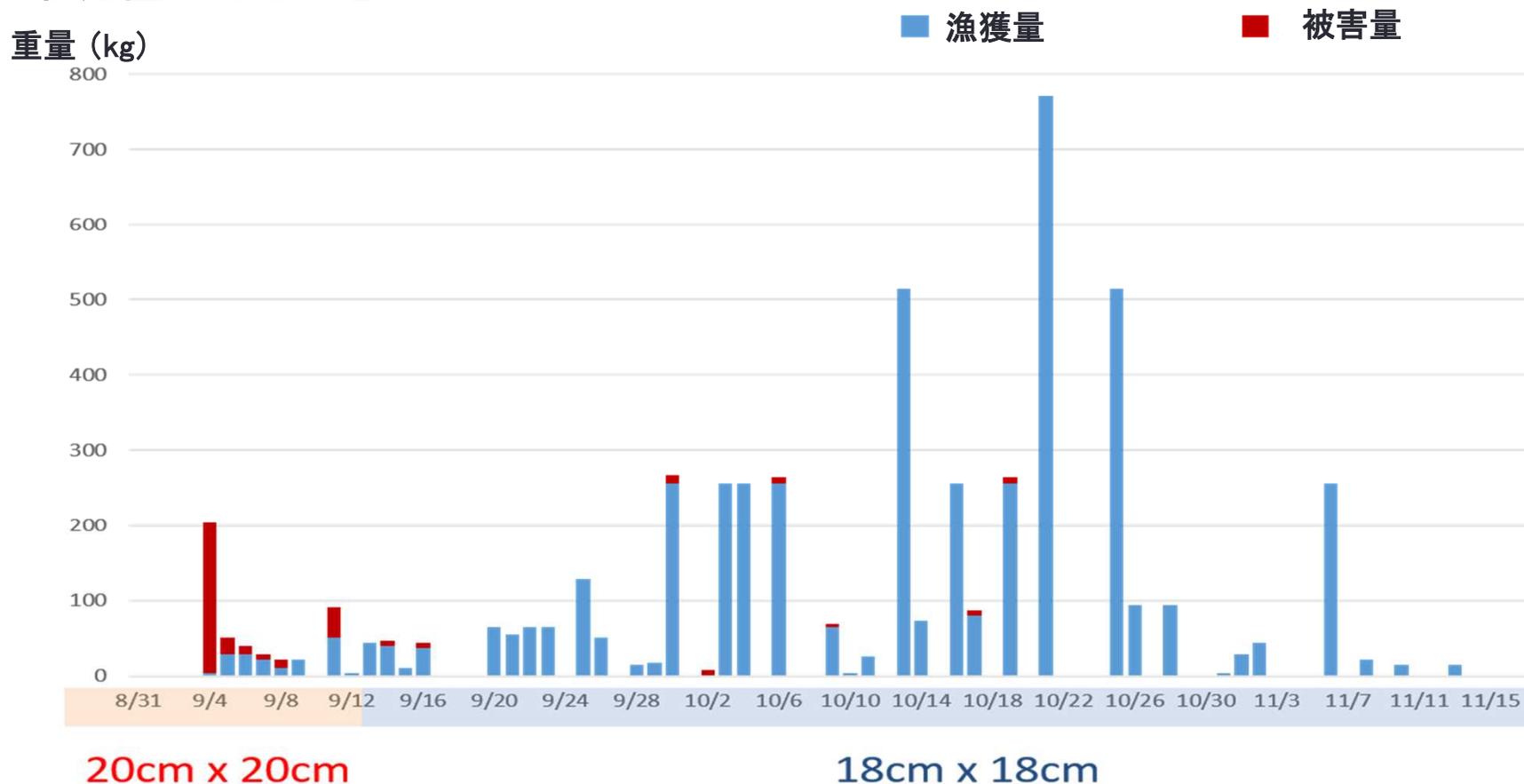


具体的な取組 被害防除1:防除格子網



具体的な取組 被害防除1:防除格子網

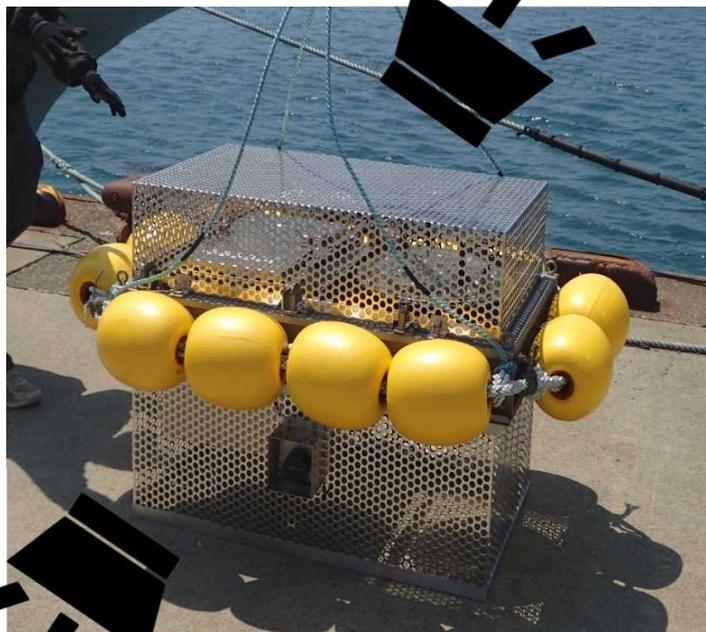
秋定置(えりも岬地区)



→完全に被害を防ぐことはできないものの、**18cmx18cmの目合いが比較的効果的に防除でき、漁獲量も確保できる**と考えられる。ただし、サケ漁獲量が少ない年が続いているため、**漁獲量の多い際の効果を引き続き調べる**こととする

具体的な取組 被害防除2: 超音波忌避装置

②被害防除



定置網の入口付近に設置



アザラシの嫌がる超音波を発射し、定置網に寄りつかないようにする

具体的な取組 被害防除2:超音波忌避装置

②被害防除

＜これまでの定置網での実地試験結果＞

- ・(前提)サケ漁獲量の少ない年が続いており、漁獲量の多い際の効果は不明
- ・防除格子網を使わず、忌避装置のみを設置したところ、被害が顕著となった
- ・防除格子網と併用したところ、忌避装置設置の有無に関わらず被害割合は低く抑えられており、効果は不明
- ・忌避装置設置数日後に、定置網付近にてアザラシ目撃
→現在のところ、忌避装置の効果は示されていない
実用性等を踏まえ、早期に取り扱いを判断

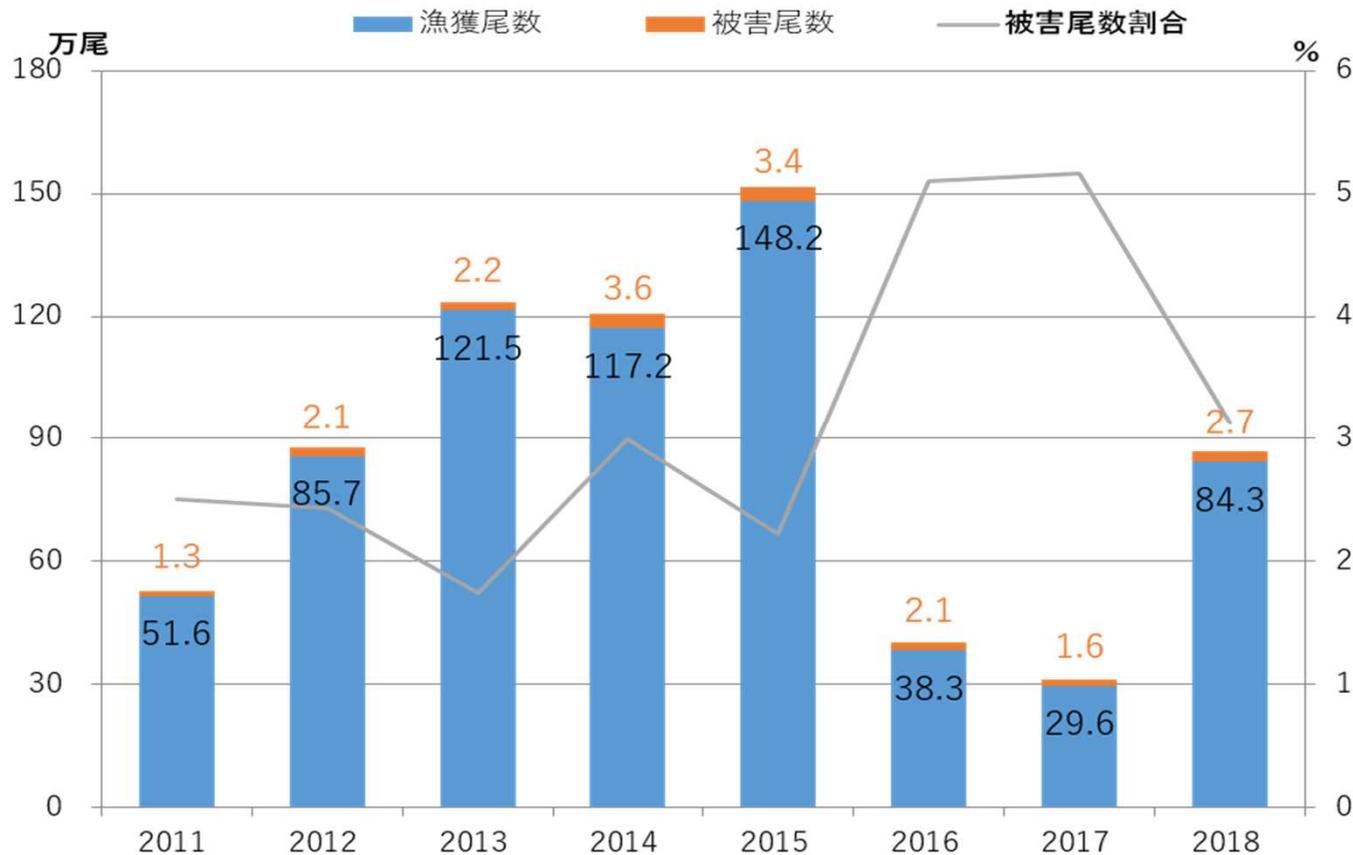
具体的な取組 モニタリング

③モニタリング

被害状況、生息調査を継続して実施

- (1)目視、ドローンによる上陸個体数カウント、解析
- (2)漁業者アンケート等による被害状況・被害意識調査
胃内容物調査、水中カメラによる行動調査 等
- (3)生息動向：
混獲・捕獲個体の生態データ、行動調査等
- (4)生息環境の情報収集
- (5)存続可能性評価：数量解析

モニタリング：被害状況



えりも地域における秋サケ定置網の被害状況

→ 漁業被害の明らかな軽減は、現在までのところ確認できず

第2期管理計画のポイント

①管理計画・実施計画 記載事項(現行の枠組みを維持)

- ・管理計画: 管理の目標、管理のための方策、被害防除対策に関する事項等
- ・実施計画: 具体的な管理方法、捕獲目標数 等

②計画期間

- ・管理計画の計画期間は概ね3年間～5年間とされているが、えりも地域におけるゼニガタアザラシ生息動向等は比較的安定しているとみられること
サケ定置網漁業漁獲量の年次変動があることを考慮し、第2期管理計画期間は5年間とする
- ・期間内に中間評価を行う

第2期管理計画のポイント

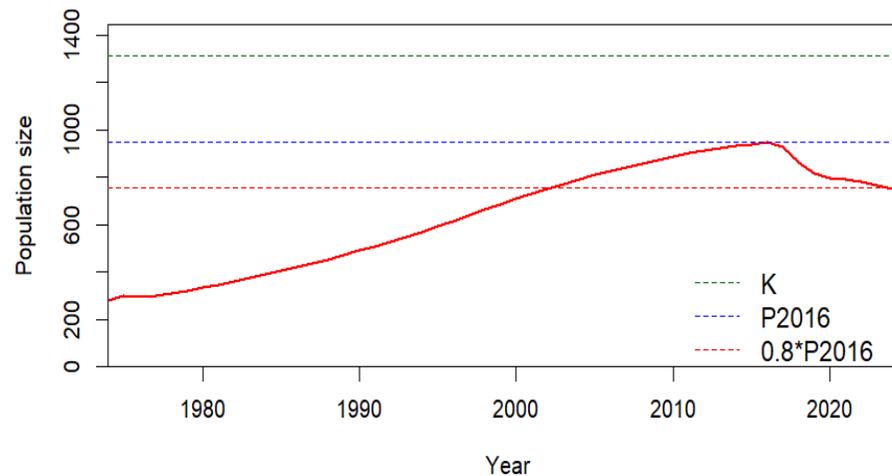
③第1期計画評価、科学的知見、地元利害関係人の意見の取入れ（主な文言追記箇所）

- ・自然災害等により地域個体群の絶滅確率が10%を超えることが予測された場合には、捕獲を中止し個体群の回復状況をモニタリングし捕獲再開の可否を判断。
- ・実施計画において管理計画期間内に生息個体数の目標を達成した場合は、漁業被害状況を踏まえつつ個体数の調整・維持を継続させる。
- ・捕獲数は、前年次の捕獲実績及び混獲による死亡個体数の動向を踏まえ、計画捕獲数に増減が生じた場合は翌年次調整する等柔軟に変更する。
- ・これまで実施してきた各種の防除手法の結果を検証し、現在の手法の改良（漁網の改良、捕獲時間等）や新たな手法の開発を進め、社会的条件を踏まえ導入を進める。
- ・えりも地域のゼニガタアザラシに関する生態、調査や防除対策等に関する知見を収集し、保護と管理に資するよう整理を行う。

今後の事業実施方針について

① 個体群管理

- ・これまで捕獲・混獲された個体の幼獣比率、性比、観測された上陸数等を反映
- ・今後、定置捕獲網を中心に大型個体を捕獲することを反映



(令和元年7月科学委員会にて)

- 計画当初、約300頭の捕獲(3年間)で8割に達するとしていたが、捕獲個体は幼獣比率が高く、現在9割弱程度
- 引き続き、**8割**を目指し、**大型加害個体**を中心に捕獲

今後の事業実施方針について

②被害防除対策

- (1) 漁網の改良
防除格子網は引き続き、改良を加え実施
- (2) 音波忌避装置
超音波忌避装置は、実用性等を踏まえ、早期に取り扱いを判断

※ 新たな手法の開発・導入を引き続き検討

今後の事業実施方針について

③モニタリング

・継続して実施

- (ア) 生息数及び個体群構成
- (イ) 混獲数(雌雄別・年齢別)
- (ウ) 捕獲数(雌雄別・年齢別)
- (エ) 被害状況(被害範囲・被害程度の把握、被害率、食性調査等)
- (オ) 生息動向(繁殖状況、行動範囲など)
- (カ) 生息環境(食物資源等、沿岸生態系の評価)
- (キ) 存続可能性評価

地元利害関係人からの意見聴取の実施結果

- ・地元利害関係人

北海道、えりも町、えりも漁業協同組合、
北海道漁業協同組合連合会、えりも町商工会、
えりも観光協会、ERIMO SEAL CLUB

- ・結果:いずれも賛成

パブリックコメントの実施結果

- ・期間: 令和元年12月12日(木)～令和2年1月10日(金)【30日間】
- ・場所: インターネット(電子政府の総合窓口[e-Gov])
<http://www.egov.go.jp>
- ・意見: 計画策定に関する意見: 0件
計画策定に関係がない意見: 1件